

こころ観の思想的・比較文化論的基礎研究 (人類はこころをどのようにとらえてきたか?)

鎌田東二 (こころの未来研究センター教授)

■こころ観の日本思想史

人類が「こころ」をどのようにとらえてきたかを、「こころ観」という括り方で捉えることから本研究プロジェクトは出発した。宗教も哲学思想も科学も、それぞれの「手法」で「こころ」を捉え、それがどのようなものであるのかを「解釈」したり「説明」したりしている。その「解釈」や「説明」のモードやコードを、「思想史」や「文化論」として位置づけてみるというのが本プロジェクトのめざすものである。だからここでは、宗教も哲学思想も科学も特別扱いはしない。そのいずれもが、独自の手付きや手法で「こころ」にアプローチしていると考えからだ。

こうして、さまざまな観点からの多様なアプローチを可能な限り総覧しつつ、「こころ」観の多様性を浮き彫りにしながら、その多様性の中の共通原理に迫っていきたいと思っているが、とりえず、戦略的にも戦力的にも基軸となるのが、「こころ観の日本思想史」というテーマである。この基軸を縦軸にとって、そこから東アジアや諸地域・諸時代の「こころ観」を横軸に、それらとの比較や照合を行っていく。

■こころ観に関する論文

各論的には、すでに、縄文遺跡から見る縄文人のこころ観(たとえば、死と再生、生まれ変わりの観念など)、『古事記』や『日本書紀』『風土記』『古語拾遺』などの神話や古代神道儀礼から見る日本人のこころ観については、論文(「こころの練り方」探究事始めその一、など)や著作(『神と仏の出逢う国』『平安京のコスモロジー』など)にまとめてきている。

また、仏教から見るこころ観についても、仏教瞑想とスピリチュアルケア学専攻の井上ウィマラ氏がこころ観と

ワザ学との相関関係の中で瞑想との関係において論じた(「仏教瞑想の射程とマインドフルネスの応用可能性」)。また、旧約聖書学専攻の手島勲矢氏が「ユダヤ教聖書解釈における〈心〉と〈名前〉と〈顔〉」について、教育人間学専攻の矢野智司氏が「人間の心を生かす他者としての動物——文学作品を通しての動物—人間学のレッスン」について発表し、その要点を表題と論点を少し変えて『こころの未来』第6号に論考として公開している。また、美術史専攻の土田真紀氏が「柳宗悦と民藝におけるワザとこころ」、記録映画『久高オデッセイ』の監督・大重潤一郎氏が「久高島に伝わる海の民のワザとこころ」について発表し、その内容を井上論文とともに『モノ学・感覚価値研究』第5号に掲載した。

■「こころ観」研究を通して浮かび上がった問題

以上のような本年度の「こころ観」研究を通して、問題として浮かび上がったことは、第一に、「心」や「魂」と「息(呼吸)」との関係である。前掲手島氏が論じているように、古代ヘブライ語の「ネフェシュ」も「プシュケー」も語源的に「息」の意味を持っている。これを図式化していえば、「いのち」と「いき」と「こころ」と「たましい」は、多くの古代宗教文化において密接な相関関係を示しているといえる。息が吹き込まれて命という肉体的実体性を持ち、そこに心の働きが生まれ、その心を包含しつつ核ないし内奥に存在するのが魂であるという相関である。

第二に、仏教はそのような「こころ」を呼吸法をベースとした瞑想技法によって探究し制御しようとした。こころのモニタリングやスキャンングを精緻にメタ化した身心変容技法が仏教文化

には芳醇に保持されている。そこで、仏教の研究は「こころ観」研究においても極めて重要な柱となるだろう。

第三に、各論として、矢野氏が提示した「動物」と「人間」との関係の「物語」も、大変示唆に富む視点を提供してくれる。人間がどのように自己理解を進めていったかを考える際に、「動物」という他者理解をどう進め、その相関をどう「物語」ったかは、アニミズム・シャーマニズム・トーテミズムなどの原初宗教とも絡み、また古代からの神話や儀礼や諸種の昔話とも絡んで、人間理解、ひいては人間の「こころ」理解(こころ観)の形成を測るものさしとなるだろう。

第四に、そのような「こころ観」理解の「物語」と「ワザ」の1つとして、柳宗悦の「民藝」運動や沖縄・久高島の民俗儀礼のコスモロジーと諸技法を見ていくことが可能であろう。

関連文献

手島勲矢「名前を付けること——心理学と聖書解釈」『こころの未来』第6号、2011年3月。
矢野智司「人間の心を生かす他者としての動物」『こころの未来』第6号、2011年3月。
土田真紀「柳宗悦におけるワザと自然」、大重潤一郎「久高島に伝わる海の民のワザとこころ」、井上ウィマラ「仏教瞑想の射程とマインドフルネスの応用可能性」、鎌田東二「『こころの練り方』探究事始めその一」(以上、『モノ学・感覚価値研究』第5号、2011年3月)。
鎌田東二『神と仏の出逢う国』角川選書、角川学芸出版、2009年。
鎌田東二編『平安京のコスモロジー——千年持続首都の秘密』創元社、2010年。